

2026 年 9 月 11 日

2025 年度卒業生 就職先アンケート結果報告

幼児教育科 進路係

<アンケートの目的>

このアンケート本学幼児教育科の今後の保育者養成教育の内容を見直すために、採用いただいた園、施設の皆さま方から見た本学卒業生への評価について伺うものです。(アンケート依頼文より)

<調査対象>

2025 年度卒業生の就職先 75

<調査時期>

2026 年 7 月 1 日から 7 月 31 日

<調査方法>

郵送で依頼し、回答は郵送もしくはオンラインアンケートフォームのいずれか(任意)

<調査内容>

- ・卒業生の資質・姿勢等、卒業生の採用の決め手、大学でもっと学ばせてほしいこと等

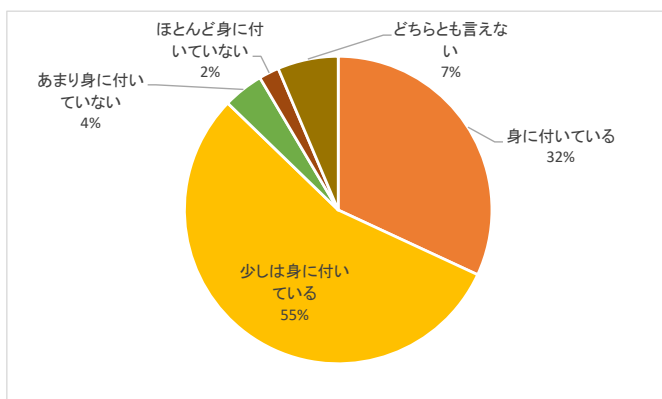
<回答率>

依頼数：75 回答数：47 回答率：62.7%

I グラフ結果総括

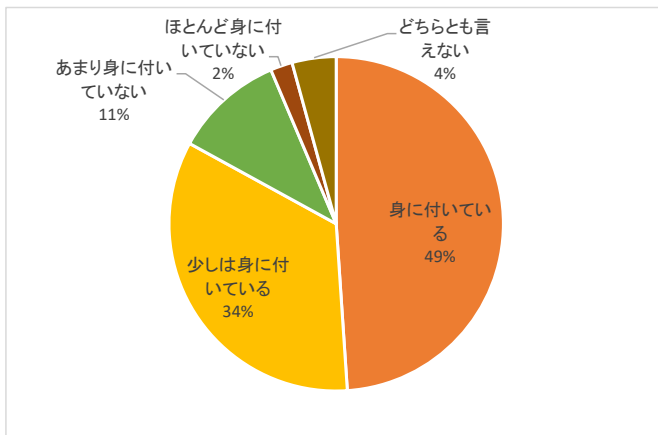
今年度のグラフ結果からは、本学卒業生の強みと今後の課題が明確に示された。まず肯定的な点として、問3(協調性)における「ある」の評価が77%と過去3年で最高値を記録した。また、問4(積極性)も62%と前年から4ポイント向上して復調傾向にあり、本学の強みである問9(子どもを見守る姿勢)も「ややある」を含めれば96%が肯定的回答を示している。一方、今後の課題として、問9の最高評価「ある」が3年連続で大幅に減少し、今年度は66%まで落ち込んでいる点は見逃ごせない。加えて、問1(専門知識・技術)は肯定的回答が前年比で6%減少し、問2(社会常識・マナー)の「身に付いている」も49%とついに5割を下回った。さらに、問5(柔軟な対応力)が38%に留まるなど、能動性や忍耐強さ等の資質における低下傾向への対策が急務である。

1. 保育に携わるための専門知識や表現等の技能は身に付いていると思いますか。



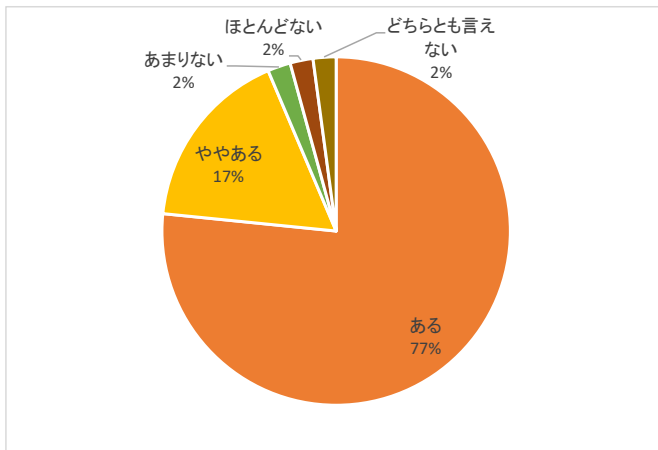
2024 年度に比べ、「身に付いている」、「少しは身に付いている」が6%減少しており、保育の専門的な知識やスキルの習得状況に対する評価が厳しくなっている傾向が見取れる。

2. 社会常識やマナーが身に付いていると思いますか。



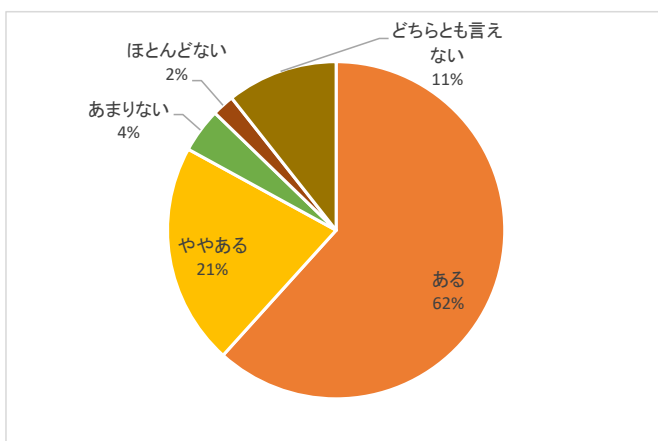
「身に付いている」が 2023～2024 年度にかけては 51% で横ばいであったが、今年度は 5 割を下回った。自由記述で「社会人としてのマナー」や「言葉遣い」への指摘がかなり多かったことを踏まえると、継続的な課題と見られるが、年々評価が厳しくなっている。

問 3. 協調性があると思いますか。



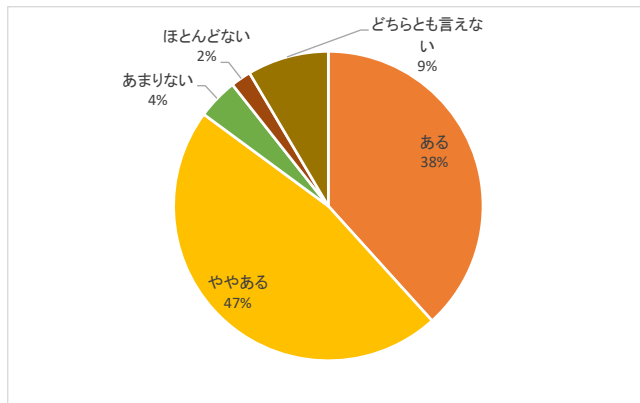
「ある」という回答が、2023 年 (67%) → 2024 年 (66%) → 2025 年 (77%) となっており、過去 2 年 6 割台だった「ある」の評価が、今年度は 7 割を超え大幅に向上している。

問 4. 自発的に仕事に取り組もうとする積極性があると思いますか。



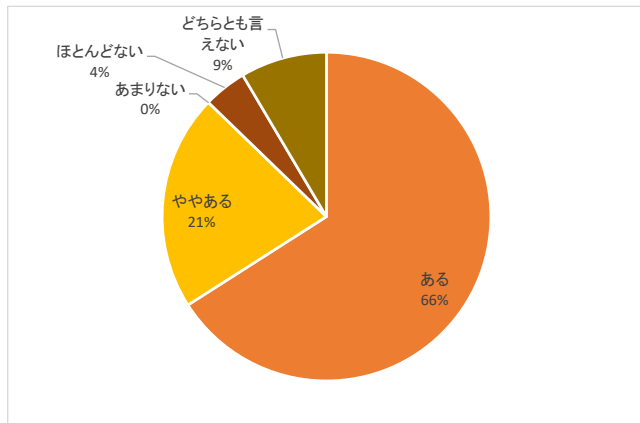
「ある」が 2023 年 (68%) → 2024 年 (58%) → 2025 年 (62%) の流れの中で、今年度は 4% 増加している。これまでも自由記述では「積極的に取り組む姿勢」が採用の決め手として多く語られており、積極性が高まった点は良い傾向であると言える。

問 5. いろいろな状況に応じて行動する柔軟な対応力があると思いますか。



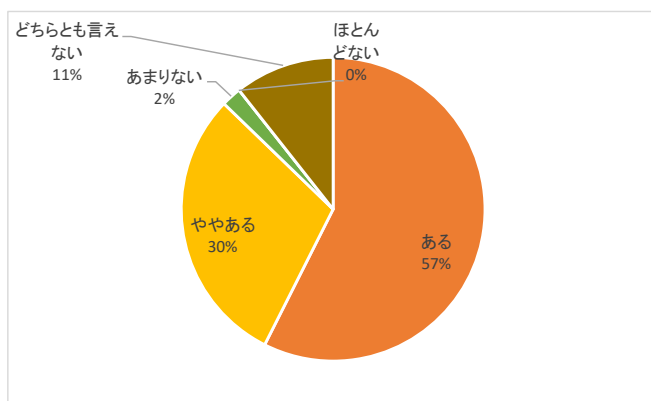
「ある」の回答が 2023 年(46%) → 2024 年(42%) → 2025 年(38%)という推移であり、4割を切る低い水準にある。現場からは「臨機応変に考え、行動できる」人材が求められており、継続的な課題と言える。

問 6. 責任感をもって仕事に取り組む姿勢があると思いますか。



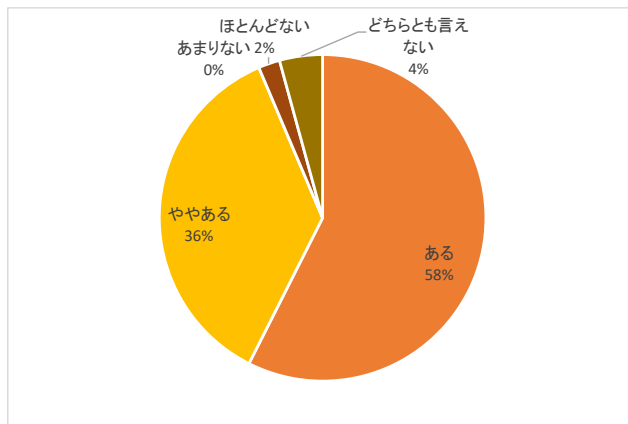
「ある」が 2023 年(73%) → 2024 年(69%) → 2025 年(66%)という傾向であり、年々「ある」の評価が下がっている様子が見て取れる。

問 7. 忍耐強く仕事に取り組む姿勢があると思いますか。



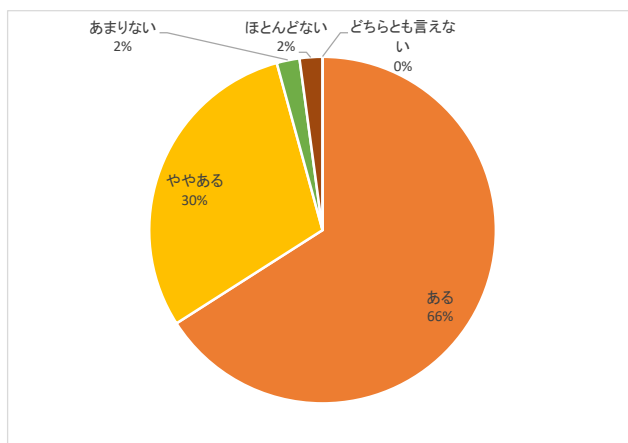
「ある」が 2023 年(64%) → 2024 年(59%) → 2025 年(57%)と変化している。「ややある」を含めると 87%となるが、まだ 1 年間を経過していない時点では「どちらとも言えない」との回答も多いため、本項目に関する評価に対しては慎重に判断する必要がある。

問 8. 生き生きと仕事に取り組む意欲的な姿勢があると思いますか。



「ある」が 2023 年(70%) → 2024 年(68%) → 2025 年(58%) と年々減少傾向にある。生き生きと取り組む姿の評価が下がっている点は、学生指導においても留意する必要があるかもしれない。

問 9. 子どもや利用者を温かく見守り支援しようとする姿勢があると思いますか。



「ある」が 2023 年(86%) → 2024 年(73%) → 2025 年(66%) という推移である。本学の強みとされる項目であるが、最高評価の「ある」が年々大幅に減少し続けている点は見逃ごせない。ただし、「ややある」を含めると 96%が肯定的であり、質が高いことは間違いない。

問 10 本学の卒業生の採用の決め手になった点がございましたらぜひお教えてください。

(自由記述・概要)

本学卒業生の採用の決め手として、「人柄・資質」「実習での姿勢・子どもとの関わり」「保育への意欲」「コミュニケーション力」「本学・園とのつながり」などが特に評価されていることが示唆される結果であった。

本学卒業生の採用においては、学業成績等の知識・技能面だけでなく、真面目さ、素直さ、誠実さ、明るさ、優しさといった人柄や、子どもに対する温かい姿勢が特に重視されていると読み取れる。また、実習時の態度や子どもとの関わり方、保育に対する意欲や向上心、面接における受け答えや自己表現力も、採用を決定する重要な要素となっている。さらに、実習・卒園・アルバイト等を通じた園との接点や、本学卒業生のこれまでの勤務実績が、園側の信頼感につながっていることも確認された。

これらのことから、本学卒業生については、保育に関する専門性に加え、人間性、実践力、コミュニケーション力、保育への意欲を総合的に評価されて採用に至っていると考えられる。

問 11 大学でもっと学ばせてほしいことがございましたらお書きください。

(自由記述・概要)

保育に関する専門知識・技術の習得に加え、社会人としての基礎的なマナーやコミュニケーション能力、主体的に考え行動する力、実践力を身につけることが期待されていることが読み取れた。特に、挨拶・礼儀・言葉遣い・受け答えなどの社会人としての基本的な態度については複数の園・児童福祉施設から要望としてあげられていた。

また保育現場では、子どもを客観的に観察し理解する力、自ら考えて行動する力、失敗を恐れず挑戦する姿勢、多様な人と協働するためのコミュニケーション力やチームワークなど、保育者として長期的に成長していくための基礎的能力も重視されていることがうかがえた。

これらのことから「知識・技術を身につけた保育者」だけでなく「社会人としての基礎力を備え、自ら考え、周囲と協働し、子どもを深く理解しながら実践できる保育者」の育成が期待されていると考えられる。

一方で、自由記述の回答からは、手遊び・制作・遊びなどの実践的な保育技術を学ぶ機会の充実を求める声も多く見られた。現場からの要望を受け止めた上で、何をどのように学ばせるべきかを精査し、本学のカリキュラムに反映していくことが重要であると考えられる。